



VOL. 145

平成30年5月21日発行

宮城県大崎農業改良普及センター

〒989-6117 大崎市古川旭四丁目1番地1号

TEL (0229) 91-0727 (地域農業班)

(0229) 91-0726 (先進技術班)

FAX (0229) 23-0910

HP <http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

E-mail osnokai@pref.miyagi.lg.jp

おおさき

～大きい輪、和、話～

Osaki



露地ぎく栽培講習会 (加美町)

意欲ある農業者の皆様を支援します!

平成三十年は、国による米の生産数量目標の配分や米の直接支払交付金の廃止、新たに創設された収入保険の加入申請の受付が始まるなど、節目の年になります。これまで以上に主体的、戦略的な取組が求められています。また、国際的な経済環境が変化する中、農業従事者の高齢化や担い手の減少、鳥獣被害や耕作放棄地の増加が問題となっており、特に中山間地域の活力低下が懸念されます。

一方管内では、地域ブランド米の取組、野菜の機械化体系導入による水田経営の複合化、若手畜産農家等による活発な研究会活動、女性農業者等による活発な新商品開発など、意欲ある農業者の取組が進められています。さらに中山間地域においても、集落ぐるみで地域営農の活性化を目指す取組、地域農業者が力を合わせた園芸生産の拡大や新たな産地化を目指す取組も始まっています。

普及センターでは、これらの取組を支援するため、今年度の重点項目として、①生産現場の課題解決と経営管理能力の向上、②消費者の信頼を高める生産体制の定着、③大崎耕土の未来を見据えた担い手育成と営農体制づくり、④地域の特色を活かした農村地域の振興を掲げ、魅力ある農業・農村の構築に向けた普及活動を展開してまいります。

大崎農業改良普及センター所長 渡邊 雅弘

21世紀元気農業の発信！ ☆☆平成30年度普及指導計画の紹介☆☆

大崎農業改良普及センターでは、4つのプロジェクト課題を設定して活動します。

平成30年度プロジェクト課題

課題名：中山間地域の活性化を支える地域営農体制の構築【新規】

計画期間：平成30～32年度（3箇年）

対象：東鹿原集落営農組合（加美町）

主な活動：

- ・地域の営農を担う担い手の育成と営農体制の整備を支援します。
- ・共同作業によるたまねぎなどの高収益作物の技術習得と定着を支援します。
- ・中山間地域の資源を活かしたグリーン・ツーリズム活動等による集落の活性化を支援します。
- ・近年増加しつつあるイノシシなどによる鳥獣被害軽減のため、「集落ぐるみで取り組む鳥獣害対策」を支援します。



集落の将来を考える

課題名：地域資源を活用した中山間地域での園芸品目の生産拡大【新規】

計画期間：平成30～31年度（2箇年）

対象：あ・ら・伊達な道の駅花き部会・せり生産者（大崎市岩出山）

主な活動：

- ・岩出山地域で新たに取組が始まった花き及びせりの生産拡大に向けて、基本的な栽培管理技術の習得や出荷販売力向上に向けた支援をします。
- ・消費者ニーズに対応するため、作付け計画に基づいた育苗や栽培による計画的な出荷を支援します。



輪ぎくの摘らい方法指導

課題名：水稲種子生産における周辺環境対策と管理体制の構築【継続】

計画期間：平成29～30年度（2箇年）

対象：いわでやま水稲採種組合・一栗・岩出山地区組合員（大崎市岩出山）

主な活動：

- ・水稲種子生産を阻害するイネばか苗病の発生を防止するため、周辺ほ場における発生対策を支援します。
- ・水稲種子生産にGAP（農業生産工程管理）の手法を取り入れ、栽培管理技術の平準化と作業方法のチェック化を支援します。



優良種子生産に向けた生産指導

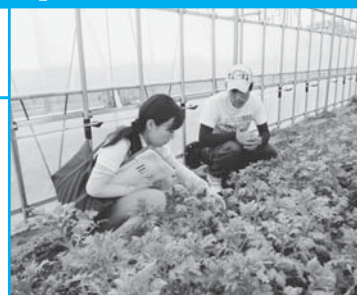
課題名：青年農業者の安定した経営に向けた経営力の向上【継続】

計画期間：平成29～30年度（2箇年）

対象：園芸品目を生産する青年農業者（大崎市）

主な活動：

- ・基本的な栽培技術や経営管理の手法を習得し、経営力の向上を支援します。
- ・研修会や交流会参加により青年農業者同士が、自主的に交流する関係構築を支援します。



現地での栽培指導

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます、応援します。宮城の農業普及

大崎農業改良普及センターでは、4つのプロジェクト活動のほか、3つの重点活動と33の一般活動を行います。なかでも、重点活動はプロジェクト課題に次ぐ位置付けです。今年の重点活動は、次のとおりです。

- I. 米のブランド化推進のための生産安定化
- II. 土地利用型経営・組織の経営複合化へ向けた園芸品目の導入・定着
- III. 新規就農者の早期経営安定

食味レベルアップ目指し、 基本技術の徹底を！

食味ランキング（日本穀物検定協会）で平成29年産ひとめぼれは「特A」を奪還することができました。平成30年度以降も引き続き「特A」を獲得できるよう、良食味米生産に向けた基本技術の徹底をはかりましょう。

1. 土づくりの実践による地力向上・持続的な米づくりの推進

気象変動に強い稲づくりと高品質・良食味米の持続的な生産のため土づくりを実施しましょう。たい肥や稲わらの施用は地力向上や土壌物理性の改善につながります。また、土づくり肥料の施用は稲体の健全化や耐倒伏性の強化につながり、登熟が向上します。

2. 晩期栽培による食味向上及びリスク分散

晩期栽培（田植えを5月15～25日に実施し、出穂期を8月中旬とする栽培管理）をすると、障害不稔の軽減、高温登熟の回避、刈取時期の秋雨への遭遇回避などリスク分散が図れます。また、出穂期が遅いほど整粒歩合が高まり、同時に味度値も高くなります。ただし、安全出穂期（出穂後40日間積算気温800℃）の範囲内となるように気をつけましょう。

3. 生育量に応じた適正な肥培管理の実施

穂揃期における葉色を維持するため、減数分裂期の葉色に応じて追肥（穂肥）を行いましょ。登熟や玄米充実度を高めることで玄米品質と食味の向上を図ります。また、ほ場に合った施肥や栽植密度、植付本数を設定し、生育ステージに応じた適正な水管理を実施しましょう。

4. 登熟向上に向けた水管理の実施

中干しや飽水管理の適期実施により稲体の活力を維持し、登熟の向上を図りましょ。また、排水性が良好な水田では、落水時期を出穂30日後以降とし、根の働きを維持することで玄米品質の向上を図ります。

5. 出穂後の気温等に基づく適期刈取の励行

刈取の遅れは食味低下の要因のひとつです。刈取適期になったら早めに刈り取りましょ。特に高温年では刈取適期は早まります。ひとめぼれの積算気温による刈取適期の目安は、早限940℃～晩限1,100℃です。

6. 良食味米に仕上げる乾燥調製の徹底

過乾燥は胴割粒の増加や光沢の低下による品質低下、食味の低下を招きます。適正な送風温度の遵守、きめ細かい水分測定を行い、過乾燥を防止ましょ。

平成30年7月より、「農業経営収入保険」の加入申請が始まります

農業経営収入保険は、ほぼすべての品目を対象に、自然災害だけでなく価格低下も含めた農業収入全体の減少に備えた保険です。青色申告を行っている農業者（個人・法人）が対象となります。

詳しくはお近くの農業共済組合へお問い合わせください。

加入から保険金支払いまでのスケジュール

H30		H31	H32
5月～6月	7月～11月	12月	1月～12月
	加入申請 受付	保険料・ 積立金 の納付	保険期間
個別相談			
			3月～6月

クマ注意！例年以上にクマによる人身被害が多発しています。不意の遭遇に注意してください。

試験研究成果報告 (普及に移す技術 第93号)

大麦リビングマルチを利用した春タマネギのIPM体系が効果的です

1月以降に播種し7月に出荷する作型の春タマネギでは、ネギアザミウマが発生し問題となるため対策が必要になります。これまでに、ほ場の通路部分にリビングマルチとして大麦を播種することにより、本虫の寄生密度を抑制できることが明らかにされましたが、タマネギがやや小玉化する場合があることや、殺虫剤の散布時期が判然としない等の問題がありました。そこで、タマネギの小玉化回避技術と、化学薬剤散布を組み合わせたIPM体系の効果と概要について紹介します。

1. 大麦によるリビングマルチを利用したIPM体系は図1のとおり。大麦「てまいらず」もしくは「百万石」を、通路部分に10kg/10aの割合で播種し、生育させるとネギアザミウマ寄生数が少なくなります。

2. 大麦の草高がタマネギの草高の半分程度に達した時点で、畝の高さまで刈り込むことでタマネギの小玉化を回避することができます。大麦は7月中旬頃から倒伏してくるため、倒伏状況に留意しつつ刈り込みの可否を判断します。大麦を刈り込んでもネギアザミウマの抑制効果は減少しません。

3. 大麦利用体系ではネギアザミウマの発生初期(5月下旬頃)のプロチオホス乳剤(商品名:トクチオン乳剤)散布が高い効果を示します。その後は発生状況を確認しながら、必要に応じて殺虫剤を使用します。なお、ネギアザミウマの初発生時期と発生量は年次や地域によって大きく変動するため、これらを把握するためには青色粘着板を用いたモニタリングが有効です。

4. 春タマネギでは梅雨入り以降に黒斑病、べと病等の病害が発生しやすいため、無機銅剤を主体に散布し、降雨状況や病害の発生状況に応じて化学合成殺菌剤を併用し防除します。

タマネギ (春まき)	4月			5月			6月			7月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
栽培目安	定植				ネギアザミウマ初発						収穫
大麦管理	播種					刈込み(タマネギ草高の半分を目安)					倒伏
アザミウマ防除	黒色ポリマルチ				大麦による抑制期間						
					(青色粘着板による初発生時期の把握)			薬剤防除			
					必須	防除目安 20頭/株		防除目安 40頭/株			
病害防除	降雨状況に応じ無機銅剤を主体とした殺菌剤散布(2~3回程度)						無機銅剤を主体とした殺菌剤散布(概ね10~14日間隔)				

図1 リビングマルチを利用した春まきタマネギのIPM体系

大崎4Hクラブが宮城県農村教育青年会議で受賞しました

平成30年2月3日に「平成29年度宮城県農村教育青年会議」が開催されました。大崎4Hクラブからは佐藤辰哉氏が「夏秋春菊の収量・品質の向上と作型の検討」をテーマに3年間の研究内容を、三浦善幸氏が大崎地域で取組んだ親子農業体験や視察研修について、氏家僚啓氏が「次の全共へ向けて」との演題で熱い想いを発表しました。

他地区の様々な取組みにクラブ員達は大きな刺激を受ける中で、大崎4Hクラブはプロジェクト発表の部で最優秀賞を受賞し、平成30年11月に開催さ

れる東北農村青年会議の宮城県代表に選出されました。今後益々の活躍が期待されます。



平成30年度環境保全型農業直接支払交付金の 交付要件が変更されています。注意してください

平成30年度から「国際水準のGAP（農業生産工程管理）に取り組むこと」が新たに交付要件に追加されました。

（これまでの「エコファーマー認定」「農業環境規範自己点検」は要件から削除されました。）

国際水準GAPの実施（以下「GAP」）とは

「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」の5つの生産工程管理の取組について、研修等を通じて理解し、その理解に基づき、自ら実施することが必要です。

①国際水準GAPに関する指導

研修等には、以下のものがあります。

- GAP指導者による指導
- 地方公共団体が主催する研修

県庁や地方振興事務所等で6月頃から開催予定です。詳細が決まりましたら、関係機関を通じて皆様へお知らせします。

- 民間団体が主催する研修
- オンライン研修
(H30年6月頃までに農水省でオープン予定)

②GAPの理解・実施

指導会や研修で学んだ内容に基づいて、自ら必要と考えた取組を実施します。

③GAP理解度・実施内容確認書の作成と提出

報告期限までに、当該年度に実施した内容を記載し、市町村へ提出します。

なお、GAPの実施は自らが設定した課題が一つ達成出来たら次の課題に取り組むなど、実施・改善を繰り返し行うことが重要です。

このため、毎年提出し、改善点を記載していただきます。

「GAP理解度・実施内容確認書」の提出は、取組を行い、本交付金を受ける農業者全員が対象となります。GAPを実施しない農業者は本交付金を受けることはできません。

まずは、ワンチェック、ワンアクションで 農作業安全を心がけましょう

春の農作業安全確認運動（4月1日～6月30日）を展開中です。

県内でも農作業中の死亡事故が発生しています。死亡事故の過半数はトラクターで、道路からの転落や横転によるものです。ぜひこの機会に、農業機械操作時の安全確認と事故予防対策を見直してみましょう。

農業機械操作の危険なポイントを検証

- ★道路外への逸脱・坂道駐車転落・横転
- ★作業中による農業機械の重心の変化で横転
- ★走行中の転落・墜落事故
路肩の老朽化に注意！

農業機械の死亡事故防止対策・準備は大丈夫？

- ★低速車マークや反射板の取付
- ★シートベルトの着用と安全キャブ・フレームの装着
- ★農作業前後の道路走行前に必ずブレーキペダルを連結

農薬を正しく使って安全・ 安心な農作物を生産しましょう

農薬の使用が多くなる季節になりました。農薬は、正しく使って安全・安心な農作物を生産しましょう。農薬を使用する際には、特に次の点に注意しましょう。

- 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- 適切な保護具を正しく着用しましょう
- 栽培履歴簿や栽培管理ノートなどに農薬の使用記録をつけましょう

※記録しておきたい事項

- ①農薬を使用した「使用場所（ほ場名）」
- ②農作物 ③使用年月日 ④農薬名
- ⑤使用した農薬の「希釈倍数」 ⑥散布量

- 使用した散布器具や機械はしっかりと洗浄しましょう

- 農薬は鍵のかかる保管庫で管理しましょう

県北部地方振興事務所では、管内の直売所向け生産者等を対象に、農薬の正しい使い方に関する研修会を平成30年7月5日(木)に開催します。農薬の正しい使い方や管理方法を学ぶ機会ですので、是非参加してください。